

合唱

戸ノ下 達也

文化芸術の灯は、平和と安寧への希求が継続した2024年だった。

日本の合唱振興に寄与した指揮者・田中信昭、作曲家・湯浅譲二と間宮芳生の逝去は、私たちに、日本の合唱文化の深耕を追求し続けた先達の意志と、その意志を次代に受け継ぎ、発展させていくことの重要性を喚起している。

今年から団員のソロアベント公演もスタートした東京混声合唱団は、10月に2024ヨーロッパ公演を挙行し、山田和樹指揮でオーケストラコンサート5回、水戸博之指揮で教会コンサートを3回開催した。主催公演は、2月に第264回定演（指揮・山田和樹、バーバラ・ドラガン）、5月に「コン・コン・コンサート」（指揮・キハラ良尚）、8月に「東混八月のまつり45」（指揮・キハラ良尚）と「東混オールスターズ～田中信昭と共に～」、10月に第265回定演（指揮・藤岡幸夫）を開催した。新作は、信長貴富に委嘱された。

室内合唱団日唱は、日本合唱協会創立60周年記念・室内合唱団日唱正指揮者就任披露演奏会として4月に第39回定演「日唱の音」（指揮・小津準策、白井智朗）、日唱ツアーコンサートVol.1を10月（指揮・白井智朗）と12月（指揮・小津準策）に開催した。

神戸市混声合唱団は、3月に春の定演「アメリカ！アメリカ！」（指揮・清水雅彦）、5月に「合唱コンクール課題曲コンサート」（指揮：相澤直人）、9月に秋の定演「現代の祈りといにしえの世俗」（指揮・佐藤正浩）、神戸市室内管弦楽団と8月に「こどもコンサート」（指揮・木許裕介）、12月に神戸文化ホール開館50周年記念としてヴェルディ「ファルスタッフ」、連携事業で「あなたに贈るコンサート」を2回開催した。

びわこホール声楽アンサンブルは、主催公演として3月に第78回定演と第14回東京公演で「The オペラ！」（指揮とピアノ・河原忠之）、6月に「美しい日本の歌」（指揮・本山秀毅）、7月に「七タロビーコンサート」（指揮・大川修司）、10月に第79回定演と第15回東京公演「4人の作曲家たち」（指揮・佐藤正浩）、「びわ湖の春音楽祭2024」で4月に「びわ湖ホール声楽アンサンブル公演」（指揮・園田隆一郎）を開催した。「オペラへの招待」シリーズは、11月に沼尻竜典「竹取物語」（指揮・阪哲郎）、びわ湖ホールプロデュースオペラは3月「ばらの騎士」（指揮・阪哲郎）を開催した。「県内すべての子どもが中学校3年生までに舞台芸術に触れる機会を創出する」目的で開催された「びわ湖ホール音楽会に出かけよう！」（指揮・阪哲郎）は、5月から6月に6日間12公演が実施された。

ヴォクスマーナ（指揮・西川竜太）は、3月に第51回定演で山本裕之と稲森安汰巳、7月に第52回定演で渡辺俊哉と近江典彦の委嘱新作と、毎回のアンコールピースは伊佐治直の委嘱新作を初演した。

これら公演のみならず、アウトリーチも注視したい。東混は、文化庁の学校巡回公演10地域の11校、その他のアウトリーチを10地域で、また神戸市混声は、神戸市内の小学校（低学年27校、高学年26校）でアウトリーチを開催した。前述のびわ湖ホールも含め、プロ合唱団が児童や生徒向け施策に取組んでいることは、文化芸術振興の観点からも特筆すべきで、更なる支援体制の充実が求められる。

オーケストラ演奏会の合唱も盛んな一年だった。

1月は、広響第437回定演でホルスト「惑星」（東京オペラシンガーズ）、2月はN響第2004回定演と大フィル第575回定演でショスタコーヴィッチ「交響曲第13番バビ・ヤール」（オルフォイ・ドレンガル男声合唱団）、大響第269回定演でラヴェル「子供と呪文」（大響コーラス、堺市少年少女合唱団、堺リープズハーモニー）、都響第994回定演でバーンスタイン「交響曲第3番カディッシュ」（新国合唱団、東京少年少女合唱隊）、3月は、OEK第479回定演でベートーヴェン「交響曲第9番」（東混）、東フィル第998回定演でオルフ「カルミナ・ブラーナ」（新国合唱団、世田谷ジュニア合唱団）、4月は、新日フィル第655回定演

でメンデルスゾーン「真夏の夜の夢」より（One Voiceちば）、5月は、読響第638回定演でマーラー「交響曲第3番」（国立音大、東京少年少女合唱隊）、6月は、N響第2014回定演でドビュッシー「夜想曲」（東混）、大響第272回定演でシューベルト「ミサ曲第6番」（大響コーラス）、京響第690回定演でショスタコーヴィッチ「交響曲第2番十月革命」（京響コーラス）、PPT第166回定演でヴェルディ「レクイエム」（PPTクワイア）、山響第317回定演でモーツァルト「戴冠式ミサ」（山響アマデウスコア）、7月は、神奈川フィル第397回定演でドビュッシー「夜想曲」（東混）、8月は、京響第692回定演でマーラー「交響曲第3番」（京響コーラス、京都市少年合唱団）、東響第722回定演でベルト「主よ平和を与えたまえ」とプーランク「グロリア」（東響コーラス）、9月は、大フィル第581回定演でベートーヴェン「ミサ・ソレムニス」（大フィル合唱団）、群響第601回定演でオルフ「カルミナ・ブラーナ」（群響合唱団）、広響第444回定演でブルックナー「ミサ曲第3番」（東京オペラシンガーズ）、東フィル第1004回定演でヴェルディ「マクベス」（新国合唱団）、10月は、札幌響第664回定演でブルックナー「テ・デウム」（札幌合唱団）、都響第1009回定演でホルスト「惑星」（栗友会合唱団）、11月は、神奈川フィル第400回定演でヴェルディ「レクイエム」（神奈川フィル・クワイア）、九響第426回定演でプッチーニ「4声のミサ」（九響合唱団、九大男声合唱団コールアカデミー）、12月は、N響第2027回定演でリスト「ファウスト交響曲」（東京オペラシンガーズ）、中部フィル第95回定演でヴェルディ「椿姫」より（NUAハルモニア合唱団有志）、読響第643回定演でモーツァルト「レクイエム」（ベルリンRIAS室内合唱団）を演奏した。

季節イベントでは、「東京・春・音楽祭」で、「にほんのうたⅧ～東京オペラシンガーズ」と合唱の芸術シリーズNo.11ブルックナー「ミサ曲第3番」（東京オペラシンガーズ）が、第44回草津国際音楽フェスティバルでは、作曲者不詳「魔笛ミサ曲」（草津アカデミー合唱団）等が演奏された。

合唱の全国組織は、アジア地域の国際交流も意識した企画にも注力し、文化振興施策を推進した。

一般社団法人全日本合唱連盟（理事長・長谷川冴子）は、3月に多治見市で子どもコーラスフェスティバルと盛岡市でJCAユースクワイア、7月に松本市で第9回男声合唱フェスティバル、8月に札幌市で全日本おかあさんコーラス全国大会、全日本合唱コンクール（10月にさいたま市で中学校・高等学校部門、11月に郡山市で小学校部門と松山市で大学職場一般部門）のほか、合唱講座「はじめてのコーラス」を計8回開催した。

一般社団法人日本合唱指揮者協会（理事長・名島啓太）は、6月にセミナーと二つのコンサートによる「JCDA合唱の祭典2024」を、また12月にJCDA教会コンサート2024「マリアの祈り」、テーマ別のオンライン講座「JCDAコーラスアカデミー」を継続実施した。

一般社団法人音楽樹（理事長・藤井宏樹）は、3月にセミナー「春のアトリエ」、GWにコンサート3公演とセミナー、公開レッスンによる「Tokyo Cantat」、8月に寺嶋陸也をテーマ作曲家とした「八ヶ岳ミュージックセミナー」、11月に「コロ・フェスタ2024in姫路」を開催した。

一般社団法人東京国際合唱機構（理事長・松下耕）は、7月に「第6回東京国際合唱コンクール」と「第10回日本国際合唱作曲コンクール」、新たな取組として8月に「うたフェスJAPAN」がスタート、11月に演奏会「千原英喜展」を開催した。

合唱においては、コロナ禍で停滞を余儀なくされた創作や演奏、イベントの再生が期待され実践された一年だった。

戸ノ下達也（とのした・たつや）

1963年東京都生まれ。立命館大学産業社会学部卒。考察課題は近現代日本の社会と音楽文化・文化政策。

著書に『戦時下日本の娯楽政策』（青弓社）、『「国民歌」を唱和した時代』（吉川弘文館）、『音楽を動員せよー統制と娯楽の十五年戦争』（青弓社）、編著書に『日本の合唱史』（青弓社）など。第5回JASRAC音楽文化賞受賞。

都留文科大学非常勤講師。

一般社団法人全日本合唱連盟理事、一般社団法人日本音楽著作権協会理事。